

# 広報

# どうし

## 道志村民憲章

私たちの七里は、緑と清流と歴史の郷です。この地に生きること誇りをもち、平和な村を築くため、ここに憲章を定めます。

私たちは

- 一、自然を愛し平和な村をつくれます。
- 一、生産に励み豊かな村をつくれます。
- 一、伝統を重んじ、教養を高め、文化の村をつくれます。
- 一、人情といたわりの心を養い、福祉の村をつくれます。
- 一、明るく健康で、活力ある村をつくれます。

2006 January 1月号



# 迎春

道志中学校1年生は「道志中を知ろう」と題して総合学習の発表用の資料を作成いたしました。

平成18年

# 年頭のごあいさつ



道志村長

大田 昌博

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

希望と喜びに満ちた新年を村民の皆様と共に暮ぐことができますことを大変嬉しく思います。そして二〇〇六年が村民の皆様にとつて大きな飛躍の年でありますようお願い申し上げます。

村政を担当させていただき五ヶ月が過ぎ、落ち着いて振り返る余裕もなかつたというのが率直な感想です。昨年は皆様に支えられた半年あまりであり、心より感謝を申し上げます。

さて、日本経済は回復基調に入つたという見方が多くなつておりますが、都市部は別として地方経済は依然一部を除き低調な状態です。「国から地方へ」「官から民へ」の大き

な変革の潮流の中で三位一体の改革、合併新法をはじめ、地方に対する厳しさが増す中で、活力と魅力のある地域づくりを目指してゆきたいと思ひます。

昨年十二月には行政改革推進委員会の皆様より最終答申を受けました。この答申に基づき道志村としての改革プランを決定し実施案を作成していきたくと考えております。この実施案に沿つて更にスリムで効率的な行政運営を進めて参りたいと考えております。

合併問題に関しましては、山梨県の合併審議会よりアンケートやヒアリングにより町村の考え方が聴取されているところとす。道志村といたしましても昨年二月の住民投票に基づいてゼロベースから道志村の財政見直し、地理的条件、生活環境、道州制の動向等を精査しより良い方向を村民の皆様と考えていきたくと思つております。

村民参加型の村政推進の第一歩として始めた「いきいきふれあいトーク」も七地区と三団体の十回開催させていただきました。多くの貴重なご意見やご提案などを多数いただきました。今後は意見の取りまとめや

報告を行い、更に今後のステップへと確実に繋いでいきたいと思ひます。

また、横浜市との交流事業の一環としての横浜訪問も計三回約一五九名の皆様にご参加頂きました。水の流れを通しての横浜市との関係も多くの皆様に理解して頂きました。今後「横浜市民ふるさと村」としての道志村の方向性を確立し、さらに未来志向の関係を構築していきたくと考えております。

その他昨年の事業等では、情報化社会・国際化社会への道志村の関わりの一環としてインド全権特命大使の来村、ならびに現在のIT事情の講演会、また、村づくりに役立てて欲しいとの「吉村コレクション」の寄贈なども含め、こうした事業を道志村の村づくりの中に今後活用してゆきたいと考えております。

道志の自然・伝統・文化に立脚した環境的・経済的にも持続可能な地域こそ道志の将来像としてふさわしいものだと考えます。確固たる道志村の将来像を皆様と共に創り上げていきたいと思ひます。今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



道志村議会議長

佐藤 光男

新年あけましておめでとうござ  
います。

輝かしい新春を迎え、謹んで村  
民の皆様のご清栄をお慶び申し上  
げます。

私は十二月議会定例会において  
議員各位のご推挙をいただき村議  
会議長の要職を務めさせていただ  
くことになりました。未だ若輩未  
熟者ではございますが、今後は非  
才に鞭打つて村の興隆発展のため  
議会運営に全力を尽くす覚悟でご  
ざいますので、何卒ご指導ご鞭撻  
をお願い申し上げます。

さて、今さら申すまでもなく、  
地方自治体を取り巻く環境は非常  
に厳しくなってきたており、当村も  
例外なく、財政面を筆頭に厳しい  
状況にあります。

しかし、短絡的に起債を発行し

てその場をしのいだりしても、そ  
れは子孫に負の遺産を残すことに  
なり、村民の皆様負担を強いる  
こととなります。

そのため、村民憲章に掲げられ  
た五項目を基本として村の重点施  
策等の継続に注力するとともに村  
内における雇用の創出を推進し、  
村の健全発展に努めたいと考えて  
おります。

また、密室での行政ではなく情  
報を公開した「開かれた行政」と  
「道理的な行政」が望まれます。

今後は、村長始め行政に携わって  
いる者と村民の皆様そして村議会  
が一致協力してより良い村を築く  
ための議会運営に、誠心誠意努力  
いたす覚悟でございますので、村  
民の皆様のご理解をお願い  
申し上げます。

年頭にあたり今後とも議会運営  
にご支援とご協力をお願い申し上  
げると共に、村民の皆様のご健勝  
とご多幸を心からお祈り申し上げ  
まして新年の挨拶といたします。

謹んで新年の  
お慶びを申し上げます

村議会議員（議席順）

佐藤 最上	佐藤 光男	杉本 正人
山口 達夫	水越 昌義	山口 義次
長田 公明	渡辺 胆男	佐藤 春光
湯川 六昭	出羽 茂雄	佐藤 一仁

成人おめでとうござります

平成十八年度成人式は、一月八日午後一時から  
中央公民館二階 大会議室で開催いたします。

渡辺 知可	上中山	池谷 拓真	長 又
山口 沙織	上中山	池谷 佳美	長 又
佐藤 歩	上中山	佐藤 栄	川 村
山口 裕喜	竹之本	佐藤 興一	大 野
山口 勝太	竹之本	出羽 克也	笹久根
佐藤 利也	東神地	山口 逸美	久 保
山口 智也	東神地	佐藤 美穂	馬 場
山口 舞	東神地	村田はるか	椿
山口 裕美	東神地	阿部 未央	椿
山口 洋久	中神地	池谷 直子	上善之木
出羽 千妃呂	中神地	池谷 賢明	下善之木
佐藤 淳	川原畑	杉本 麻理	下善之木
佐藤 加奈子	川原畑	山本 健二	東和出村
小林 直也	谷 相	松岡 陽子	西和出村
佐藤 絵里	谷 相	池谷 尚美	上白井平

# 道志村行政改革推進委員会から最終答申

道志村行政改革推進委員会（会長：出羽幸男・委員九名）は、十二月五日、「道志村の行政改革の推進に関する重要事項について」最終答申を村長に提出しました。答申は、九回にわたる協議を重ね、六月の中間答申を引き継ぎ道志村行政の急務となる改革方策を取りまとめたものです。

村では、本答申を踏まえ、早急に「行政改革推進プラン」をまとめた上で、実施に向けた取り組みを推進していく方針です。

## 答申の要旨

### 1 基本方針

「人口減少高齢社会」の新時代に向けて真に豊かな地域社会の実現を目指し、地域にふさわしい「かたち」を構築していくため、本村行政においても大胆な改革が求められている。このため、国が目指す「小さな政府」の方針をもって、本村も行政のスリム化を進めていかなければならない。今後、本村が直面する人口減少と高齢化の新たな時代に向けた、地域に即した行政のシステムを「協働化」「スリム化」「自立化」の視点をもって、住民福祉の向上を目指し、地域一丸となって輝く時代の村づくりを進めていく必要がある。

### 2 具体的方策

#### (1) 住民自治の推進

地方分権の時代を迎え、真の住民自治を目指した地域にふさわしい自治のあり方が求められ、より民主的で公正な透明性をもった地域自治を進めるため、情報の共有化を図りつつ、「協働」作業によって団体自治と住民自治の両輪が連携し、公共目的を担っていく「本村のかたち」を創っていく必要がある。

・地域担当者を配置した地域会議の検討

・行政評価システムの導入について検討

#### (2) スリムな行政システムの確立

「最小の経費で最大の効果を挙げる」基本原則にたつて、限られた財源のなか地域に即した行政のシステムを整備していくため、大胆な改革を進める必要がある。

これを踏まえて、スリムな行政を指向するなかで、地域にふさわしい事務事業、組織機構、職員数、給与制度、等の改革を進めつつ、電子自治体となる態様を地域に適した形で整備し、高度化、専門化する行政事

務に的確に対処できる人材を育成して、事務の効率化と行政サービスの向上を推進していく必要がある。

特に、事務事業における民間委託や指定管理者制度等の活用を積極的に進め、行政のスリム化を図っていくことが重要である。

#### 〈職員数と給与の適正化〉

・一般職員数を平成十八年度末までに六人減員（十一・五％）した四十六人体制を目標

・議員定数を四人削減する検討

・農業委員定数の削減を検討

・用務員の廃止

・保育所調理員の削減

・管理職手当を最大五〇％程度引き下げ

・退職時特別昇給制度を廃止

・税務手当を廃止

・村長・収入役・教育長の給料を十六％程度引下げ

・議員報酬を十六％程度削減

・時間外手当費を抑制

・寒冷地手当を廃止

・昇給停止年齢を五十五歳に引下げ

・旅費手当の廃止

#### 〈組織機構の見直し〉

・段階的に五課を三課へ統合・再編する検討

・医科診療所と歯科診療所の統合及び事務処理の一本化を検討



- ・教育委員会の組織の見直しを検討

### 〈電子自治体及び人材育成の推進〉

- ・情報通信基盤の整備について検討
- ・人材育成方針の策定

### 〈事務事業の見直し〉

- ・公用車の削減を検討
- ・選挙執行事務の見直し
- ・時間外窓口サービスの拡充検討
- ・外灯事業の縮小を検討
- ・公衆トイレ事業のあり方を検討
- ・観光施設事業の見直しを検討
- ・公共施設浄化槽の浄化槽事業への一体化を検討
- ・歯科医療事業の営業時間のあり方を検討
- ・各種イベントのあり方の検討
- ・敬老の日事業の見直し
- ・祝い金支給事業の見直し
- ・健康予防事業の強化を検討
- ・ホームヘルパー派遣の廃止を検討
- ・村単教員事業のあり方の検討
- ・全職員での対応を継続(庁内清掃・電話・案内・受付)

### 〈民間委託等の推進〉

- ・指定管理者制度導入を検討…
- 道志の湯・水源の森・道の駅どうし・森のコテージ・屋内プール・体験農園・道志川溪流フィッシングセンター・グリーンロッジ・特産品加工施設(味噌加工)

- ・事業譲渡を検討…漁業センター
- ・運営形態について検討…給食センター
- ・廃校(久保)について…再利用等を含め総合的に検討

### (3)健全な財政運営の推進

「歳出を減らして、歳入を増やす」この基本方針をもって、本村の財政構造を健全化の方向へ進めていく

#### ① 財政の健全化

安定した財政運営を確保するため、経常経費の更なる削減を優先しつつ、補助金等の見直し、投資的経費の質の転換等「歳出削減」を進める。又、村民所得の向上を基本に「歳入を増やす」対策を進めるとともに、新たな財源の確保に向けた取り組みを村の重点政策に位置づける必要がある。

- ・物件費の削減
- ・税等全納奨励金の見直し
- ・各種団体補助金の見直し
- ・村営事業の収益向上
- ・入湯税の向上対策
- ・産業誘致の検討
- ・法定外税の新設を検討
- ・受益者負担の適正化を検討
- ・使用料・手数料の見直し検討
- ・法定外公共物の売却を検討

#### ② 公的施設

公的施設の整備については、慎重

な対応をしていく。しかしながら、既に計画、財源構成された事業については再度、経済効率等の検証を加えた上で優先度に応じた適切な取り組みに努める。又、既存施設の耐震等の整備もその緊急性から必要最小限の範囲で計画性をもって行う。

- ・公共施設整備計画の見直し検討
- ・公的施設の耐震化を検討

#### ③ 公共工事

本村の財政状況を見極め、政策目標に最適な事業選択での重点的・集中的な投資を行うっていく必要がある。

- ・単独事業の見直し
- ・建設コストの縮減
- ・発注時期の見直し

#### ④ 公営事業

##### 経営改革の推進

事業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況のなかで、更なる経営体質の改善が求められる。このことを踏まえ、事業のあり方を検討するとともに、経営改善のための更なる「経費の削減と増収対策」を検討し、職員定数・給与の適正化を進めつつ、経営健全化へ向けた有効な対策を推進する。

##### 水道事業

- ・使用料金の見直しを検討
- ・受益者負担の適正化対策

- ・業務委託費の圧縮対策
- ・修繕コストの圧縮
- ・繰上げ償還を検討

##### 浄化槽事業

- ・受益者負担の適正化検討
- ・保守点検及び清掃委託費の圧縮
- ・建設コストの圧縮

##### 介護サービス事業

- ・受益者負担の適正化対策
- ・保守点検等委託費の圧縮

### 3 行政改革の推進

今後、行政改革を着実に推進していくため、次の事項に留意し、取り組みを推進していくことが必要と考える。

- (1) 改革は五年度の実施計画を策定し、その進行管理を行い、毎年度評価を実施し、公表する。
- (2) 改革は順次可能な項目から実施を進めていく。
- (3) 行政評価と連携し、効果的な改革を行う。
- (4) 社会の情勢、国の動向などに柔軟に対応する。
- (5) 改革は、住民福祉を低下させない姿勢と方向性をもつ。
- (6) 住民とのパートナーシップに基づいたものとする。
- (7) 職員の意識改革に努める。

# 横浜市でシンポジウム

## 「豊かでおいしい水を未来まで」が開催

### 大田村長がディスカッションのパネリストとして参加

十一月二十七日(日)みなとみらい地区のパシフィコ横浜・会議センターのメインホールにおいて、シンポジウム「豊かでおいしい水を未来まで」

は、大田村長、大輪教育長、議会議員五名が参加した。

全」をテーマにディスカッションが行われた。

ディスカッションは、藤原一繪・横浜国立大学教授がコーディネーターとなり、箕田俊彦・横浜ロータリークラブ会長、道志水源林ボランティアの会の園部弘明、金近忠彦・横浜市水道局長、大田昌博・道志村長がパネリストとして出席し、これまでの水源林保全活動を振り返った感想、課題や今後の活動に対する抱負をそれぞれの立場から述べられた。

大田村長からは、村の森林の荒廃状況や水源地から見た横浜市の水源地の保全の取り組みに対する感想や意見を述べ、また、村の財産である豊かな森林や清らかな水など自然環境を生かした地域間交流の必要性、これを生かした観光立村のあり方等今後の展望も含めて多くの横浜市民の参加者の皆さんに呼びかけを行いました。

最後にボランティアの会の松尾美貴子さんが活動宣言を行いフィナーレとなりました。

第一部では「道志水源林ボランティアの会」の設立総会があり、今後の道志村の四十七パーセントを占める民有林の下刈り、間伐などの森林整備が、将来はNPO法人を中心とした諸団体に移行して行くものと思われまます。

第二部では、長年道志村において植林、育林活動を推進した横浜ロータリークラブやペットボトル「はまっ子どうし」の販売に協力されたヨコハマ・グラウンド・インターコンチネンタルホテルなど六団体一人に中田市長からの感謝状贈呈式、女優の星野知子さんの記念講演、そして、「市民との協働による水源林の保



道志村長がパネリストとして参加



第一部と第二部の休憩中、横浜市長と道志村長の対話がありました

「道志水源林ボランティアの会」が正式に発足し、今後は多くの市民が道志村を訪れて、水源地の環境保護・保全のための活動を期待するものですが、村民の皆さんも市民活動に出来るように、掛け替えのない大切な自然を未来に引き継いで行くためにも、ボランティアの活動にご協力をお願いいたします。

なお、当日は会場の入口において道志村の紹介コーナーを設け、道志村役場産業観光課の職員がパンフレットを配布したりして村のPRを行ってききました。